

第30回 大高山・忘年ハイキング

第4支部(株)エビナ
海老名 孝
平成18年12月23日 晴れ

今回で第30回を数えますハイキング同好会ですが、出席率が3割にも満たない私に報告書を書けと幹事の仰せですので、不肖私が書かせて頂きます。

尚、最初に下記の点をお断り致します。

1. 最近のハイキング同好会報告は「I」とか「E」とか「U」とか人名をイニシャルで記す傾向にありますが、私共は別にいかがわしい行為や、やましい事をしている訳ではありませんので、実名で書かせて頂きます。
2. 文中に「肥満」「デブ」「ハゲ」「寸足らず」「甲斐性無し」「未婚者」等の差別的表現が出て来るかもしれませんが、作品として必要と思われるので、予めご了承下さい。

師走も押し迫りました12月23日折角の祭日でしたが、「忘年」という言葉に惑わされ私共はハイキングに出かけました。

早朝の西武池袋駅に集合しましたのは、幹事の磯部さん、乾さんそして小川さん、秦さん、私の5名であります。

途中、大根田さん、若林さんを加え、吾野駅で原さんご夫妻と合流し、総勢8名での登山と思いきや、原さんご主人は暮れで何かとお忙しく、大根田さんは「~~性格的に~~」「体力的に」何か重大な問題があるとの事で別ルートに行くことになり、結局6名での山行きとなりました。

先ず法光寺で安全祈願？をし、細い登山道をひたすら登りますが、これが狭くジグザグの急な道で、10分もしない内にうっすらと汗をかき始めます。

先頭の乾さんは素人を見下した様に早いペースを保ち、何とかすがりつく私以外はやや遅れ気味となります。最終の磯部さんも大変と思います。

最初の休憩場所で、参加者は各自、着膨れを剥いで軽装となり、水分補給と栄養補給を行い、さらに先へ進みますが、結構アップダウンがあり、我々は登っているのか、下っているのか錯覚をしている内に最後の急勾配を登ると大高山の頂上へ到着しました。

大高山の頂上は意外に狭いのですが、木々の間からの景色は良く、幾重に連なる山並みの先に白く雪を被った富士山の山頂も望むことが出来ました。

休憩もそこそこに次の天覚山へ向かいます。(早く忘年会をやろう)

ここからがきつい、先程以上のアップダウンを続き、先頭の乾さんがわざと意地悪をして遠回りをしているのではないかと口には出さないが、皆内心思っていました。ただ、道すがら、今登ってきた大高山が綺麗に見え、なかなか美しい山だと思いました。

ようやく天覚山の頂上へ到着する頃には、身勝手な先頭グループと人の良い後続グループの差は大分離れ、先にウイスキーを飲み始めた乾さんと私は、ただただ若林さんの持っている大根田さん作成の薫製を待ち望むばかりでした。

全員が揃い、磯部さんが紅茶を沸かし、待望の薫製を程よい大きさに刻み、皆飲み始めると、ここである事に気が付きます、乾さんが今回不参加の内田さん差し入れのウイスキーを1本、私が自前の角瓶を1本、若林さんがポケット瓶を1本、何で山頂にウイスキーが2.5本もあるのか、皆、「忘年」という言葉に惑わされたのです。

山頂にて、喉を潤し、若干の腹ごしらえをし、原さん奥さんの「富士山はどこに見えるの」という軽いボケも入り、下山することになりました。

ここで特に申し上げたいのは、天覚山の標識を壊したのは決して私達ではありません。後から来た若い団体です。私達はそれを一生懸命直そうとただけです。

山頂のすぐ下には天覚大明神跡があり、社殿を取り壊した廃材と「両峯神社跡」と刻まれた小さな石柱が立っていました。

というような訳で、東吾野駅へと下山致しました。この間、色々とあったと思うのですが、空きっ腹にウイスキーを呑んだので、あまり細かいことは覚えていません。

電車にて、飯能駅まで移動し、原さんご主人、かの大根田さんとも再会し、いつの間にか、米山さん、小野寺さんも加わり、恒例の「次郎長寿司」にて忘年会を開催しました。

席上、幹事よりこれまで30回の収支報告も行われ、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

尚、詳細は一身上の都合で省略致します。

その後、帰りの電車で騒いだの、池袋でもう一悶着あったのだとかも省略致します。

幹事のご両人には本当にありがとうございました。そして、参加された方、体を使われた方も、胃袋だけお使いの方も本当にお疲れ様でした。

来年もより多くの方が、楽しく参加出来る事を願っております。